（様式１）

県立藤代高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

1 確かな学力の涵養
2 一人一人に寄り添った進路指導の充実
3 豊かな心及び道徳的実践力の育成
4 開かれた学校づくり
5 学校における働き方改革の推進
6 教科及び学校の授業改善推進

各学校で定める目標と育成する資質・能力

現代社会の課題に気付き、確かな学力を基盤とした課題設定・思考を通して、自らの力でよりよい地域・社会をつくろうとする姿勢を身に付ける。

・各教科で学んだ内容や教科の特質に応じた見方・考え方をはたらかせ、課題や現象を多面的に捉える力を身に付けることができる。(知識及び技能)
・探究活動の過程や日常生活での経験を踏まえて、仮説を立てたり、検証方法を考えたり、結果を科学的に考察したりする力を身に付けることができる。(思考力, 判断力, 表現力等)
・生徒が発見した課題について、自分事として捉え、課題の解決を通してよりよい社会をつくろうとする意識や態度を身に付けようとする。(学びに向かう力, 人間性等)

総合的な探究の時間の学習評価

・各教科で学んだ内容や教科の特質に応じた見方・考え方をはたらかせ、課題や現象を多面的に捉える力を身に付けている。(知識・技能)
・探究活動の過程や日常生活での経験を踏まえて、仮説を立てたり、検証方法を考えたり、結果を科学的に考察したりする力を身に付けている。(思考力・判断力・表現力)
・生徒が発見した課題について、自分事として捉え、課題の解決を通してよりよい社会をつくろうとする意識や態度を身に付けようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

生徒の実態

・地域の課題を自分事として捉え、多様な視点をもつ仲間と協働しながら、解決を模索する態度を身に付けていく必要がある。
・主体的に設定した目標について、スモールステップで達成し、喜びを味わう姿勢を伸ばしていく必要がある。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・担任による個別面談（生徒・保護者）
・学年での情報共有
・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携の下、個に応じた支援
・教科や他学年との連携

目指す生徒の姿

・知識や技能を身に付け、活用することができる。
・自己や他者を認め、協働することができる。
・主体的に学び、仲間と課題を解決していくことができる。
・見通しを持って、社会や自然と関わることができる。
・多様なものの見方の中から、新たな価値を見いだすことができる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

これまでに学んだ知識・技能を踏まえて身の周りで問題となっていること、問題になりそうなことを見つけ、その解決策を深く探究していくことを目指す。課題設定や探究に関するスキルを身に付けた上で、各自が設定したテーマについて探究活動の実践を行う。

１学年

■持続可能な社会のためにできること
(1) 現代社会の課題に取り組むための基礎的な事柄を身に付けることができる。（知識及び技能）
(2) 読書等を通して得た情報や知識を整理することができる。（思考力、判断力、表現力等）
(3) 読書等を通して得た情報や知識をお互いに伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

■地域を知ろう「取手市の課題探究」
(1) 取手市が抱える現代社会の諸問題について考察することができる。（知識及び技能）
(2) 地域の諸問題を自分の事として捉え、探究活動を通して得た情報や知識を整理することができる。（思考力、判断力、表現力等）
(3) 地域の諸問題を自分の事として捉え、協力して課題に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）

２学年

■持続可能な社会のためにできること
(1) 各教科で学んだ内容や見方・考え方を働かせることができる。また、読書等を通して課題や現象を多面的に捉える力を養うことができる。（知識及び技能）
(2) 他の生徒との情報共有を通して、科学的に考察する力を身に付けることができる。（思考力、判断力、表現力等）
(3) 課題の解決を通して、より良い社会を作ろうとする意識や態度を身に付けようとする。（学びに向かう力、人間性等）

■自身の興味・関心について学ぶ
(1) 各教科で学んだ内容や見方・考え方を用いて、課題や現象を多面的に捉える力を身に付けることができる。（知識及び技能）
(2) 探究プロセスを通して、情報収集した結果を考察する力を身に付けことができる。（思考力、判断力、表現力等）
(3) 課題を自分の事として捉え、課題の解決を通して見識を深めようとする。（学びに向かう力、人間性等）

３学年

■持続可能な社会のためにできること
(1) 日常生活や社会に目を向けることで、自ら課題を設定し、将来の進路や職業と関連させながら深い課題意識をもつことができる。（知識及び技能）
(2) 主体的に必要な情報を収集し、整理・分析するとともに、体験活動を行うことで学びたい学問分野について理解を深めることができる。（思考力、判断力、表現力等）
(3) 自分の考えをまとめ、課題解決に向けた取り組みを表現・発表する中で、気付きや発見を重ね、試行錯誤しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

■自己実現と社会貢献
(1) 自己の在り方・生き方や進路について考察する学習を通して、進路選択に必要な能力や態度を養うことができる。（思考力、判断力、表現力等）
(2) 身に付けた知識を現実生活や今後の進路選択に応用し、豊かな社会を築くことに積極的に寄与し、協働することができる。（学びに向かう力、人間性等）

学習活動、指導方法等

・学習活動

週１時間の「総合的な探究の時間」の中で、講義形式・演習形式の授業や講演会、体験学習、プレゼンテーション、キャリアガイダンス、大学訪問等を通して、各スキルを身に付けていく。学習の記録としては、テキスト、ワークシート等を使用する。

１年：地域の課題に気付き、その課題解決のためにグループで主体的に探究活動を行う。
グローバルリーダーシッププログラムを通して、様々なスキルの向上を目指す。

２年：生徒の興味・関心に沿って課題を設定し、その課題解決に個人またはグループで主体的に探究活動を行う。

３年：生徒自身の興味・関心と社会問題を照らし合わせ、自分の進路に応じた課題を設定し、探究活動を行う。

・指導方法

各学年、該当学年担当職員を中心に指導を行う。

１年：探究活動を行うために必要な手法を身に付けることを中心に指導する。探究のフレームワークを学び、それに沿って探究活動を行う。

２年：地域の人的・物的資源を活用し、外部機関（近隣の大学等の公共機関）と連携して探究活動を深めて行く。

３年：広い視野で学問と自己の将来がとらえられるよう指導する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・「総合的な探究の時間」推進委員会を中心として、全体計画の立案、指導体制における教職員の連携・協力を図る。
・年に１回程度、指導のノウハウやスキルを進化、継承するための研修会を実施する。
・教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資産も含めて活用する。
・大学（主に本校の卒業生が在籍する）や研究機関を訪問する等、外部機関等との連携・協力を構築する。